

技術の交流を深めよう、 台湾との交流を

～台北における「中(台)日工程技術
シンポジウム」の開催～

沖縄職業能力開発大学校 林 文彬

日本と台湾の工学分野の専門家らが一堂に会する「第34回中(台)日工程技術シンポジウム」が2023年11月20日～23日の4日間にわたって台北で開催されました。

このシンポジウムは、台湾の「中国工程師学会(中工会)」が主催し、「中国工程師学会日本分会(台科会)」が共催しているもので、実行委員会の事務局は「台湾中油股份有限公司(李順欽董事長)」が担っています。日本と台湾との技術人材の交流を通じた台湾産業界への投資と提携の促進を図るために1980年から年に1回もしくは2年に1回開催され、今回で34回目を迎えました。

20日午前の開幕式典は、行政院鄭文燦副院長(副首相)の主催で開かれ、来賓として台湾日本関係協会蘇嘉全会長、日本台湾交流協会服部崇副代表等が参加されました。その後、經濟部王美花部長(経済相)・經濟部エネルギー署吳志偉副署長と日本工学会岸本喜久雄会長により「エネルギー転換、持続可能な未来」、「持続可能な社会の実現に向けて期待されるイノベーション」をテーマとした基調講演が行われました。午後は、参加者一行は行政院陳建仁院長(首相)を表敬訪問し、陳院長との懇談会が催されました。陳院長は、このシンポジウムの開催が台湾と日本の友好の礎となり、各分野における両国の協力と提携の機会が促進されることに期待を寄せられました。

今年はエネルギーを中心に17分野50議題が各会場

で開催されました。各会場では、講師の講演の他、企業や研究施設の見学会が実施されました。今回のシンポジウムの準備作業は半年前から始まっており、中工会が希望する議題を台科会に提示し、その後私たち台科会の会員達が各自数個の議題のコーディネーター役を担当することになりました。私も、講師探しや開催終了までの間の講師と台湾の間のパイプ役を務めました。

今回、私は「自然起源放射性物質(NORM)の戦略的管理」、「水素燃焼技術の工業炉への応用」および「洋上風力発電における日本の海陸空無人車両の技術開発と共同応用の進展」の3つ議題を担当しました。初めはこれらの分野の専門家との人脈不足などの不安がありましたが、幸いにも様々な方の紹介を得て、最終的に東京大学や東京工業大学の教授および一般社団法人日本UAS産業振興協議会(JUIDA)の役員等3名の方に快く講師を引き受けていただくことができました。

また、今回のシンポジウムには私の出身である国立台北科技大学の校友が私の他に3名日本から参加しました。これに合わせて、母校の国立台北科技大学姚立德前学長・考試委員(閣僚と同格)をはじめ、国立台北科技大学の国際事務部范政揆部長、研究發展部莊賀喬部長、宋裕祺前工学部長、材料研究所邱徳威所長および多くの先生方と産業界の方々が私達と意見交流の懇談会を開いてくださいました。この懇談会で台湾工業技術研究院日本事務所楊馬田所長と私は「日本産学官との協力関係および工業技術研究院の役割」、「日本公共職業訓練体系と能開大での高度職業訓練」というテーマで講演を行いました。

以前、私は沖縄高専の方々を2回にわたって案内して母校の国立台北科技大学を訪問し、両校の国際交流促進を図ったことがあり、今後はより沖縄能開大との交流も広げていきたいと母校の先生方からメッセージをいただきました。

2024年2月22日、台湾の呉鳳科技大学蔡宏榮学長、李天欣副学長ら3名が沖縄能開大に来校され、高良富夫校長の表敬訪問に合わせて、学生の課題作

品を見学されました。能開大の開発課題で実施している生産機械システム技術科，生産電気システム技術科および生産電子情報技術科3科の学生による課題製作が，主に産学共同研究のテーマであること，さらにその技術の高さが非常に高評価でした。3科技術協同の課題開発は台湾の科技大学現場ではまだできていないようだとのことです。また，この分野の技術は能開大がリードしていると褒めて下さいました。

今後，国内の各分野もこの「中(台)日工程技術シンポジウム」のように台湾との交流が活発になるよう願っております。

参考資料：

- 1) 2023中日工程技術研究会：「<https://34sjmets.com/>」